

「亀岡市民」も 話が長くなるには 「理由」がある

平成28年度「話が長くなるお年寄には理由(わけ)がある」と題した講演会から3年、亀岡市の70歳以上の約2,300人を対象にした大規模訪問調査を通じて見えてきた高齢者像を講演と公開討論で報告します。亀岡には幸せと感じる高齢者が他の地域より沢山居られる。その理由を明らかにします。

日時：8月3日(土)

午後1時30分から午後3時30分

場所：ガレリアかめおか2階大広間

定員：350人 要申し込み・先着順(定員になり次第締め切ります)

※ 当日受付も可能です。

※ 当日は要約筆記による対応を行います。

※ 手話通訳が必要な人は、7月29日(月)までに申し込んでください。

申し込み・問い合わせ 亀岡市 高齢福祉課

市役所1階 高齢福祉課 生活支援係(24番窓口)

電話 25-5127 FAX 24-3070

水分補給のためのお飲物は各自でご持参下さい。

主催 亀岡市

市民フォーラム スケジュール

13:30 開会

13:35~14:15

基調講演

「高齢期を幸福に過ごすためには」

14:20~14:50

報告「亀岡市高齢者訪問調査報告

(平成28年度から平成30年度)」

14:50~15:00 休憩

14:50~15:30 対談

「亀岡市民」も話が長くなるに は「理由」がある^{わけ}

亀岡市で取り組みを進めている高齢者訪問調査の平成28年度から平成30年度の調査結果から、豊かな自然に囲まれた亀岡において、亀岡らしい日々の暮らしの作業はもちろん、地域での学習会や集まりなど、自分の行える範囲での人々との交流が、こころの健康のために重要であることが分かってきました。

今回の対談では、心理学者として亀岡市をフィールドに研究されてきたお二人に、それぞれの研究から見えてくる亀岡で幸せな高齢期を迎えていくためのコツについて語り合っています。

基調講演 山崎幸子

「高齢期を幸福に過ごすためには」



博士（人間科学）、公認心理師、臨床心理士。

福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座助教、学内講師を経て、2010年より文京学院大学人間学部心理学科准教授に就任。専門は、老年心理学、臨床心理学。精神科病院、ク

リニックなどでカウンセリングに従事している。現在は、高齢者の閉じこもり、うつに対する心理的支援のあり方や、一緒に住んでいるご家族の関わり方・対応方法などについて、疫学的調査や訪問介入研究を進めている。

報告 増井幸恵

「亀岡市高齢者訪問調査報告
(平成28年度から平成30年度)」



2008年東京都老人総合研究所（現・東京健康長寿医療センター）に入所、研究員として活動中。専門は、高齢者心理学。特に高齢期の幸福感について研究している。

2013年、日本最大規模となる「超高齢者（85歳以上）

の老年的超越」の調査により博士号を取得。2010年より兵庫県・東京都を調査地として開始された健康長寿研究（SONIC）の研究メンバーの一人。亀岡市では、2016年度より高齢福祉課の実施する高齢者訪問調査において、高齢期の幸福度に関する調査の分析業務を行っている。